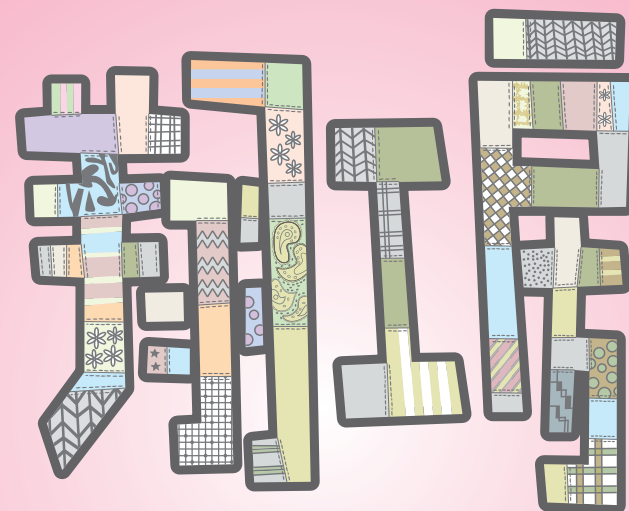




学生のアイデア×匠の技

(財) 一宮地場産業ファッションデザインセンター
www.fdc138.com/fashion/seminar/syo/
ロゴマーク制作者 外山 栄 (中部ファッション専門学校)

shokobo



shokobo

学生のアイデア×匠の技

(財) 一宮地場産業ファッションデザインセンター

翔工房とは

アパレル製品を開発するためには、抽象的なアイデアやイメージをテキスタイルやガーメントという具体的な製品に落とし込むという企画の力が必要となります。

翔工房は、ファッション業界の各方面での活躍を期待される学生にたいして、こうした企画力を早い段階から醸成する目的で創設されました。ファッション業界を担う学生にとって、創造するアイデア・イメージから実際の製品になるまでの一つ一つの現場や工程を目で見て、肌で触れることは非常に貴重な経験であり、将来の糧となります。

学生の斬新なアイデアを基に、学生と経験豊富な「匠の技」をもつ技術者とのコラボレーションによって、この世に一つしかないテキスタイルが生まみ出されます。

果たしてこの素材から、学生自身はどのようなガーメントを製作するのでしょうか。。。

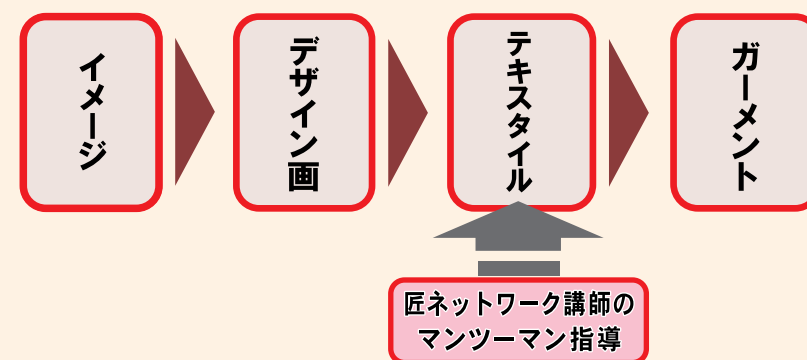
若者は未来の尾州を支える要諦です。

こうした人材の育みは、尾州産地にとっても大きな財産となります。FDCは翔工房を通じて、ファッション業界、何より尾州産地の将来のために、可能性に満ちた才知溢れる種をまきます。

翔工房の流れ

学生がイメージを基に、思い通りのガーメントを製作します。翔工房では、その素材となるテキスタイルの製作について、その糸から完成までの工程を、卓越した技術と能力を兼ね備えた「匠ネットワーク」のメンバーを講師として招聘し支援していきます。

ファッション産業を担う学生



■ スケジュール ■

4月	学校を通じ参加学生を募集
5月	オリエンテーションによる参加学生の決定
7月	第1回合同打ち合わせ会
7－10月	テキスタイル製作（5－8回程度）
9月	第2回合同打ち合わせ会
10月	第3回合同打ち合わせ会
11－12月	ガーメントの製作
1月	第4回合同打ち合わせ会
2月	総合展「THE 尾州」でのガーメントの展示

F.S



製作にあたって

生地はやわらかく、フワフワした感じにして、ドットの柄は1cm大くらいで少しぶっくり浮き出た感じにしたいです。ドット模様はピンク、黄、黄緑、水色、オレンジ色にして、絵柄は金色で、ハートやスベード、王冠、ダイヤ、クローバーを散らしたいです。ふんわりとした女の子らしいマキシ丈ワンピースに仕立てたいと思っています。

B.S



イメージ



当初のイメージとの比較

最初にイメージしたとおりに作ることができました。色や雰囲気、布の質感もとても満足しています。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

織物の中に細かい柄を入れることはとても難しいことなんだということを知りました。実際に布を織っている所も見ることができ、とても勉強になりました。

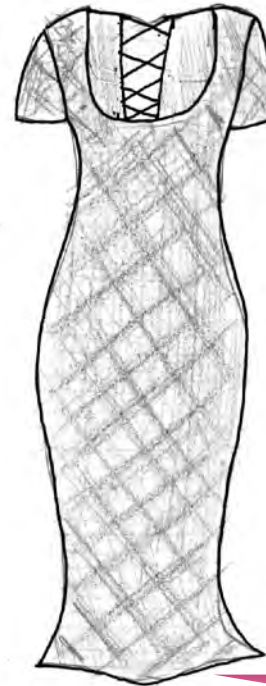
ガーメント製作に向けて

本当にほぼイメージどおりの布を作っていただけたので、このイメージのまま作品にいかしていけるようにしたいです。

■タイトル カラフルドット

■混用率 C50 N42 Ac4 N4

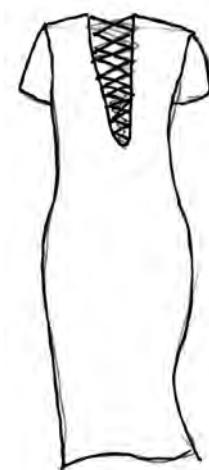
F.S



製作にあたって

黒一色で格子の織柄で、見る角度により柄が浮き上がって見えるような布にしたいです。ドレーシーでセクシーな感じのマキシ丈のワンピースに仕上げたいと思っています。すっきりとしたシルエットが出るように少しストレッチが入っているといいかと思っています。

B.S



イメージ



当初のイメージとの比較

イメージそのものの生地ができました。圧をかけて艶のあるものができました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

織物と編物、バイアスという事が何も分からずにはじめてのに、今回の製作を通じて良く理解できました。

ガーメント製作に向けて

イメージどおりのものができたので、イメージをくずさないように作っていきたいです。

■タイトル バイアス・ブラック

■混用率 W54 Cu45 Pu1

F.S

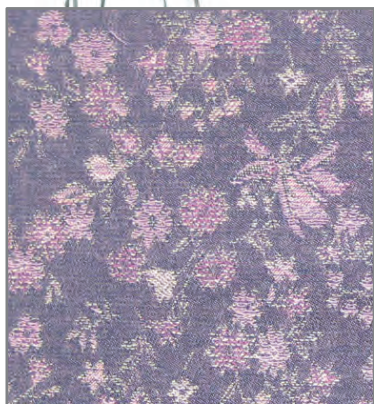
製作にあたって

かわいらしいフェミニンな感じにしたいと思っています。紺地に花柄で春夏用のワンピースに仕上げたいです。柄のバラの花と葉は、1つの花が2cm大で立体的にしたいです。

できれば学校など普段に着れるお洋服にしたいので、しわになりにくく、洗濯などで、取り扱いのしやすい布になればいいなと思っています。

B.S

イメージ



当初のイメージとの比較

イメージ通りでよかったです。両面使える布になってよかったです。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

工場に連れて行っていただき、織機で織物が織られていく過程が勉強になりました。

ガーメント製作に向けて

かわいいワンピースができたらいいなと思います。

■タイトル 清楚

■混用率 W83 R17

F.S

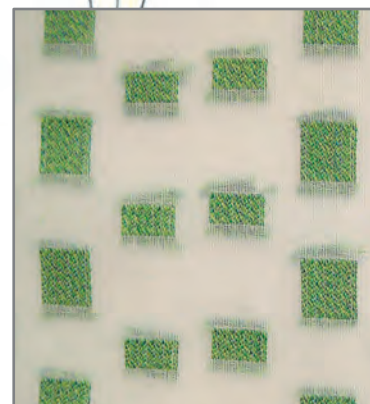
製作にあたって

60年代風で、サイケな感じの布にしたいと思っています。夏に普段着られるような、涼しげな感じで大きなサングラスとボブヘアが似合う雰囲気、レトロな感じのワンピースにしたいと思っています。

地の色は濃い緑で、大きな四角の柄は黄緑色で塗りつぶし、小さな四角は黄色の外枠のみにしたいです。

B.S

イメージ



当初のイメージとの比較

予想していたものとは少し異なりましたが、予想以上のものができました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

どうやって布ができるのか大体でしか把握できなかったけど、今回を通じてよく分かりました。ブランドのコレクションで使われている布のサンプルなどを実際に見て感動しました。

ガーメント製作に向けて

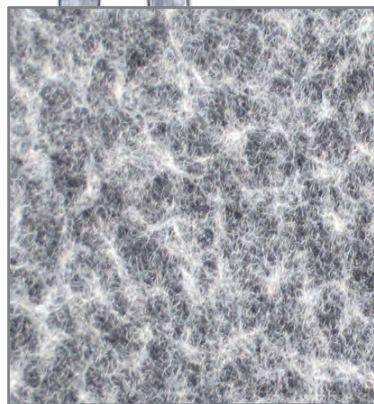
せっかくなので作っていただいたので、きちんと製作したいです。

■タイトル 夏が待ち遠しい服

■混用率 Pe80 Ac10 C10

製作にあたって

時間がたつと洋服には毛玉が付きます。ウール素材ではとくに顕著に現れます。本来なら嫌がられて、衣服から引き剥がされてしまう毛玉たち。けれど、「毛玉」は使われたからこそ現れます。使えば使うだけ毛玉は生れます。人間と素材の関係が、毛玉のかたちで視覚化されます。いわば、毛玉は人と素材の愛の結晶かもしれません。そんな「毛玉」が主役になるテキスタイルが作れないかと考えました。満天の星空のように毛玉を美しく感じ、愛着が持てるテキスタイルを目指します。イメージはネップツイードの毛玉版です。ウール素材を使い、大量のネップ(毛玉のような球体)のある糸を制作し、糸の凹凸が生きる方法で織り上げて、一つのテキスタイルに「毛玉」を落とし込みたいと考えています。



■タイトル kedama
■混用率 W80 Ap10 N10

当初のイメージとの比較

コンセプトの「毛玉」という部分を大切にしながら、それが一番生きるシンプルで現実的なテキスタイルを目指したいと考えていて、ほぼ最初のイメージのものが出来上がりました。最初のイメージと異なるのは手触りで、想像より柔らかくボリュームのあるものに仕上がりました。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

イメージやコンセプトを考えると共に実用性までを見越して無限にある色・素材・技法を選択していくことの難しさを感じました。けれど、テキスタイルの複雑な部分に触れることで、奥深さや可能性の多さを知ることができました。

ガーメント製作に向けて

出来上がったテキスタイルの雰囲気を大切に、特徴が生きる形を探していきたいと思っています。また、実際に身に付ける事によって、テキスタイルがどのように経年変化していくのかも気になります。

製作にあたって

凸凹とムラのようなテクスチャーを作りたいと考えています。産地である尾州のウールを主な素材として使い、部分的にポリエステルなどの異素材を交えて織ります。更に不規則に経糸、緯糸の密度を変えます。そして、最終的に織り上がった生地には縮絨加工を施すことで、縮絨の度合いがところどころ違ったように表れ、生地全体に模様のようなムラができます。また、生地の縮絨しない部分が少しふっくらと盛り上がるので、凸凹も生まれます。このようにしてランダムで不規則な視覚的にも楽しめるテクスチャーと動きのあるテキスタイルを作りたいと思っています。



■タイトル envelop
■混用率 W100

当初のイメージとの比較

当初は重くてボリュームがあり、凹凸感もしっかりと出ているような、真冬にも着る事ができるコート用の生地をイメージしていました。完成テキスタイルは薄く、軽い、そして手触りの良い、柔らかい生地になりました。凹凸感は、当初のイメージ通に出ていると思います。

新たな発見や学んだ点、苦労した点

生地に凹凸を出すための後加工として、織り上がった生地に樹脂プリントをし、その上から縮絨をかけていただきました。これに際して、プリントに使用する型を製作すると大変なお金がかかるので既存のものを使わせていただき、加工するために匠講師にわざわざ他県の工場にまで行って頂きました。このようにしてテキスタイル製作をする中で、オリジナルのデザインのものを作るためには、資金はもちろん、様々な技法を施す事ができる場所等についての知識や経験がある事が大事だと実感しました。

ガーメント製作に向けて

完成テキスタイルが、当初のイメージしていたものとは少し変わっているので、完成テキスタイルの雰囲気に合わせて、もう少し軽いコートになるようにデザインを調整しました。かわいい、ふんわりとしたイメージは当初と変えないつもりです。